

春号

2018年春号  
中札内村商工会  
サービス業部会企画



# ア・カムイ

エゾモモンガ 子を守る神様

## 森の動物たちには、早くこいこい春、活動の季節が、やってくる…!

中札内村商工会サービス業部会会報

# ア・カムイ(エゾモモンガ)のはなし

エゾモモンガは日本では北海道だけに住む、リスのなかまです。帯広市や中札内村では市街地の公園緑地や農耕地の防風林にもいます。夜行性の小動物で目立たないせいか、その存在を知る人はほとんどいません。でも、たとえば私が勤めている帯広畜産大学の構内だけでも、多い年には一年間に一〇〇匹を越えるモモンガを捕まえた事があります。



見た目は可愛らしく、カメラマン等には人気があります。それほど数が少ない貴重種でない事、害獣でも、かといつて何か人の役に立つ動物でもない事、そして夜行性で調査が難しい事、などが原因でこれまでほとんど研究された事のない動物でした。

私はモモンガの研究を約30年続

けていますが、なるほど大変な動物です。まず活動時間が、日没から日の出までと公務員の勤務時間のまきり逆です。冬眠はしませんが、冬の活動時間は極端に短くなりま

す。北海道の冬は夜の長さが十数時間ですが、そのうち一時間弱しか活動しません。私たちはそれを十数時間ずつと森の雪に穴を掘って中で待っています。時にマイナス20度以下になる場所です。誰も研究しな

かった訳です。ただ、そういう地道な観察の積み重ねで、今まで謎だった彼らの生活がだんだんと明らかになってきました。その成果の一つとして中札内の防風林にはモモンガが

安全に高速道路を渡るための橋がいくつか作られています。あまり人の役に立っているとは言えない動物ですが、この意外と身近な、小さな隣人の生活も守つてあげたいものです。

昭和34年山口県岩国市生まれ。帯広畜産大学卒業後、九州大学大学院を経て再び帯広畜産大学に就職。以来、30年「野生動物管理学」を教育・研究。最初のころはモモンガやエゾリス、コウモリ類などの保護に関する仕事が多かったが、現在では各市町村のエゾシカ、ヒグマ対策と呼ばれることが多くなった。中札内村にもこれらの動物の調査で時々御邪魔しています。現在は教育担当の理事・副学長。

著者  
柳川 久先生紹介

